

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

一般の部

令和四年三月度 入賞句一覧

投句数

五百二句

名和 永山 選



特選

髪を切りローズ口紅春待てり

大垣市

柴田 えり子

何とまずがすがしく清楚な句ではないか。春になるのを待つ、女性の「髪を切り、ローズの口紅をさしている」その面影やしぐさまで目に映ってくる。とりわけ、今年の冬は寒かつたし、春にも雪が降ったので、季語「春待てり」によつて一層心を踊らせているのである。

朝東風や夫病床の千羽鶴

養老郡養老町

佐藤 咲楽

「東風」とは、春を知らせる風のこと。東から吹く強い風であるが、冬の終わりを告げ、時には雨を伴うこともあるが、すぐそこにおだやかな春が来ているのである。「夫病床の千羽鶴」は、病が治ってほしいという願いである。季語との取合せによつて「一日も早く穏やかな日が来ることを願っている」様子がはつきりとわかるのである。

この街と人に慣れきて水ぬるむ

大垣市

安田 むつこ

季語「水ぬるむ」は、冬の寒さや水の冷たさから、やつと待つていた春がやつてきて水も温んできたということ。見た目にも春の暖かさを感じるのである。作者は、どこかの街からこの街に嫁いでこられたのか、また、引越してもされてきたのだろうか。何年かの月日の中で「この街」に慣れられたその喜びを「水ぬるむ」の季語に託されたのだ。

秀逸

早耳を隠しゆつたり春シヨール

東京都北区

菱沼 多美子

噴き上ぐる湧水甘し梅ふふむ

大垣市

岡田 幸子

花よりも枝ぶりをほめ梅一輪

大垣市

岡田 あや子

撫牛の首にリボンのうらゝけし

大垣市

尾関 逸子

春泥もなつかしきもの桂馬跳び

大垣市

村田 通夫

飛べさうで跳べぬ小川や水温む

大垣市

早崎 美弥子

予定なき書舗に寄り道日脚伸ぶ

不破郡垂井町

竹嶋 富美子

鳥帰る震災遺構遠く見つ

岐阜市

堀江 美州

楊貴妃とふ紅梅ことに艶めきぬ

養老郡養老町

田中 紫香

やはらかき風に調ふ初音かな

愛知県豊田市

城山 悠水

入選

冬落暉閃光峰を燃やしけり

愛知県額田郡

平松 京師

世話焼きを持味とせり木の芽和

埼玉県川口市

吉永 寿美子

老舗屋の大福うまし犬ふぐり

大垣市

川瀬 恭子

雪だるま解けて愛嬌出てきたる

大垣市

末守 節子

春一番木の香ほぐるる宮普請

大垣市

白井 秀子

君死する朝に一つの梅開く

大垣市

田口 貞善

毛氈に猫の足跡雛の朝

本巢市

土川 楽人

春風が小波連れそい寄せ返す

大垣市

土屋 宗馬

峡よりの里をた走る春の水

大垣市

伊藤 英司

吊し雛揺れて重なる影の濃し

大垣市

酒井 和美

梅東風や厨の玻璃戸叩きをり

大垣市

立川 昌子

夕東風や街路樹に入るはぐれ鳥

大垣市

平野 順一

ぼたもちに足を投げ出す彼岸かな

養老郡養老町

松永 智志

どこへでも飛んでいきたい春の空

大垣市

高橋 俊夫

再入院の老妻の窓春の雪

大垣市

西脇 克明

のどけしや薄紙透かす古書の文字

大垣市

高木 歌佐

啓蟄や縄文土器に罅数多

兵庫県神戸市

岸下 庄二

狭き庭福良雀の十羽ほど

大垣市

高津 喜久子

束の間の古城を跨ぐ冬の虹

瑞穂市

谷 牛歩

千枚田百枚ほどの斑雪

岐阜市

辻 雅宏

選者吟

をさな子の竹とんぼ追ふ若草野

永山

一般の部

